

～誰もが役割を持ち、社会から孤立することなく、
安心して自分らしく暮らすことができる「地域共生社会」の実現～

福山市における孤独・孤立対策の取組について ～社会的孤立・排除のない地域づくりをめざして～

【説明者】
広島県 福山市
保健福祉局 福祉部 福祉総務課
末宗 喜美



広島県 福山市の概要

100万本のばらが咲き誇る
「ばらのまち福山」を“ちいと”紹介

※“ちいと”は備後弁で“少し”



①人口

■福山市 458,192人 (215,668世帯)

■広島県 2,750,540人 (1,340,297世帯)

②65歳以上

■福山市 134,276人

■広島県 822,599人

③高齢化率

■福山市 29.3%

■広島県 29.9%

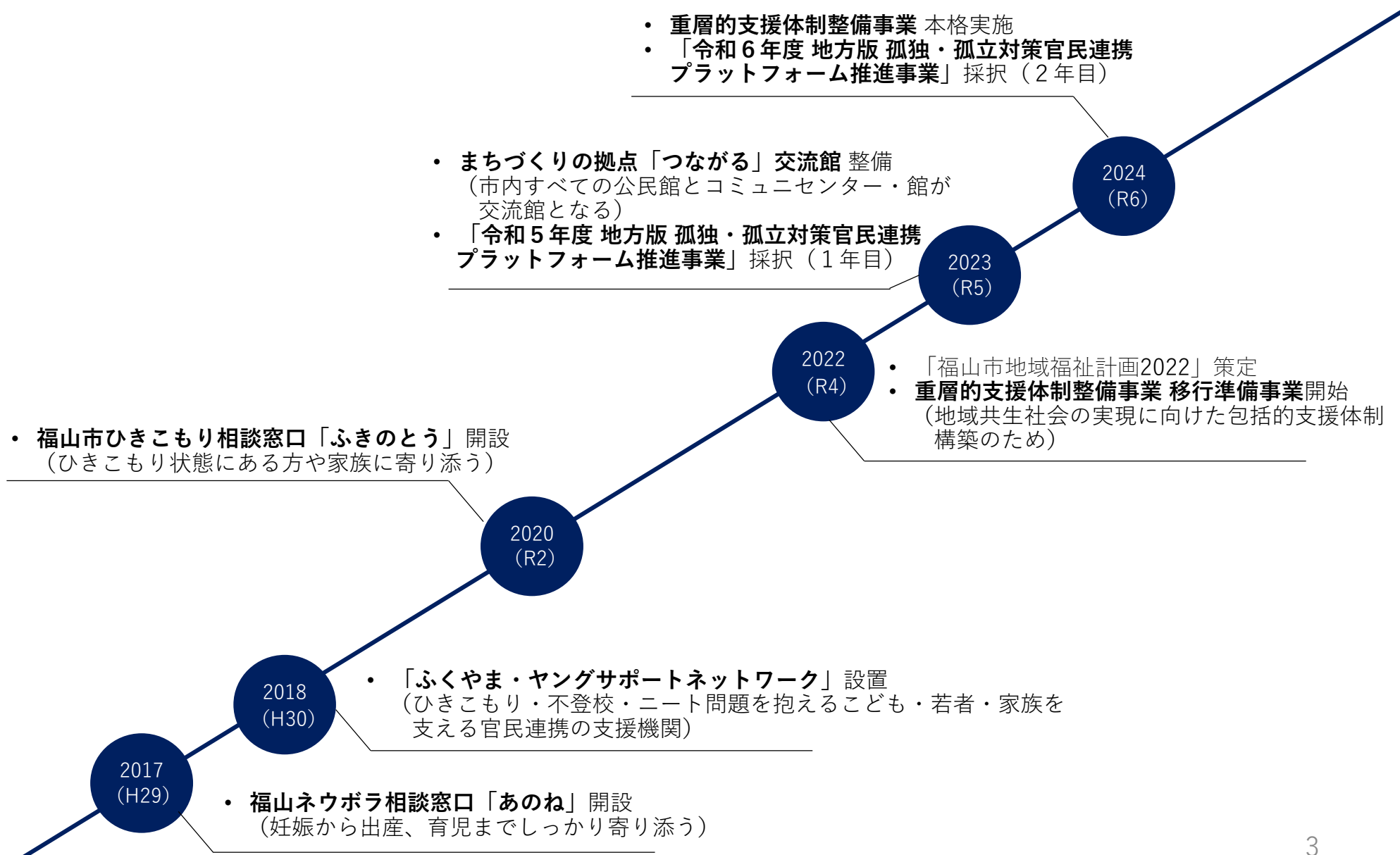
(R6.1.1現在)

総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」より)



- 広島県の南東にあり、温暖な瀬戸内海沿岸のほぼ中央に位置する。
福山駅を中心に市街地が広がり、市の中心部から少し離れたところに田畑が広がる。
- 1916年7月1日に市政を施行して以来、10回（1市30町村）の合併を重ね、
中四国地方有数の都市となる。（面積：517.72Km²）
- 産業構造として、鉄鋼や電子デバイス、機械、造船のほか、世界のハイブランドも活用する
高品質なデニムに代表される繊維産業など、多様な製造業が集積している。
- JR山陽新幹線のぞみ号の停車や山陽自動車道、国の重要港湾である福山港など、
中四国地方の交通・物流機能の拠点。

福山市 孤独・孤立対策のあゆみ



福山市地域福祉計画 2022（概要）

地域共生社会とは

誰もが役割を持ち、人と人がつながることで、誰一人取り残さず、
住み慣れた地域で安心して暮らせるように、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、
そして、地域をともに創っていく社会のことです。



- ・「縦割り」を超える
- ・「支え手」「受け手」という関係を超える
- ・「世代や分野」を超える

地域共生社会の実現に向けて ― 地域福祉の推進 ―

福山市では「福山市地域福祉計画 2022」を2022年（令和4年）3月に策定し、取組を進めています。

基本理念

『支え合いながら すべての市民がいきいきと心豊かに 安心して暮らせる 共生のまち ふくやま』

基本目標

- 1 誰もが孤立せずいきいきと暮らせるつながりづくり
 - ・ 関わり合うきっかけづくり
 - ・ 気軽に集える場づくり
 - ・ 誰もが生きがいや役割を持てる社会参加の環境づくり
- 2 様々な相談に対応できる包括的な支援体制づくり
 - ・ 地域団体間のネットワークづくり
 - ・ 身近な相談支援体制の充実
 - ・ 公的なサービスの充実
- 3 互いに支え合える仕組みづくり
 - ・ 助け合いの意識づくりとニーズの把握
 - ・ 理解し合う学びの機会づくり
 - ・ 様々な支え合いの実践

重点施策

- 1 重層的支援体制の整備
→ 2024年度（令和6年度） 重層的支援体制整備事業を本格実施
- 2 デジタル化の推進
- 3 地域を担う人材の育成

住民主体の包摂的な地域活動（見守り）

○生活支援活動（お互いさま活動）

公的サービスでは解決が難しいちょっとした困りごと（ゴミ出し、掃除、草取りなど）を、住民同士の助け合いの中で、できる人ができる時にちょっとだけお手伝いして解決していく取組

○住民が主体となった通いの場

ふれあい・いきいきサロン（年10回以上）、喫茶店風サロン（週1回以上）、高齢者居場所づくり事業（週2回以上）、いきいき百歳体操など

○小地域福祉ネットワーク活動

地域内で発生する福祉課題を地域住民全体の問題としてとらえ、住民相互の助け合い・ふれあい活動を基本に、小地域でネットワークを編成し訪問活動をきめ細かく展開する取組

○放課後子ども教室

こどもたちが学習・多様な体験・交流活動ができるよう、交流館等を利用して、地域住民ボランティアである協働活動サポーターのもと、安全・安心な場を提供する

○こども食堂（地域食堂）

地域のボランティア団体等を中心に、こどもが一人でも利用することができる無料または低額で利用できる食堂

○まちづくり推進委員会活動

住民主体の地域づくりに向けて、市内の小学校区毎に協働のまちづくりを推進する自治組織を設置し、地域の課題解決や地域の活性化を図る

包摂的な地域活動（風景）

三世代ユニカール大会



子育て応援 絵本読み聞かせ（中学生）



サロン／高齢者のための絵本読み聞かせ



サロン／ギター演奏



シニア料理教室（中学生参加）



防災訓練／消火活動体験



こども110番の家 疑似体験



平和学習／学区の歴史を学ぶ



本市の取組（地方版 孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム推進事業）

国の動きを受け、本市での取組を強化 → 国のモデル事業採択

ねらい  **孤独・孤立対策推進法 ≠ 事業 = 理念の共有**

● 普及活動

- ✓ 社会資源マップの見直し
- ✓ 「みんなのつれのうて文化祭」における取組発表
- ✓ 孤独・孤立に関するフォーラム
- ✓ つながりサポーター養成講座（市職員対象・中学生対象）

● プラットフォーム形成

- ✓ 「まちサポ」の登録団体等へアンケート実施
- ✓ ワークショップ開催
- ✓ 人々のつながりに関するアンケート調査



ワークショップ風景

（仮称）ふくやま孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム

（水平的連携のもと、顔の見える関係づくり、人と人をつなぐネットワークづくりの場）

【めざす姿】

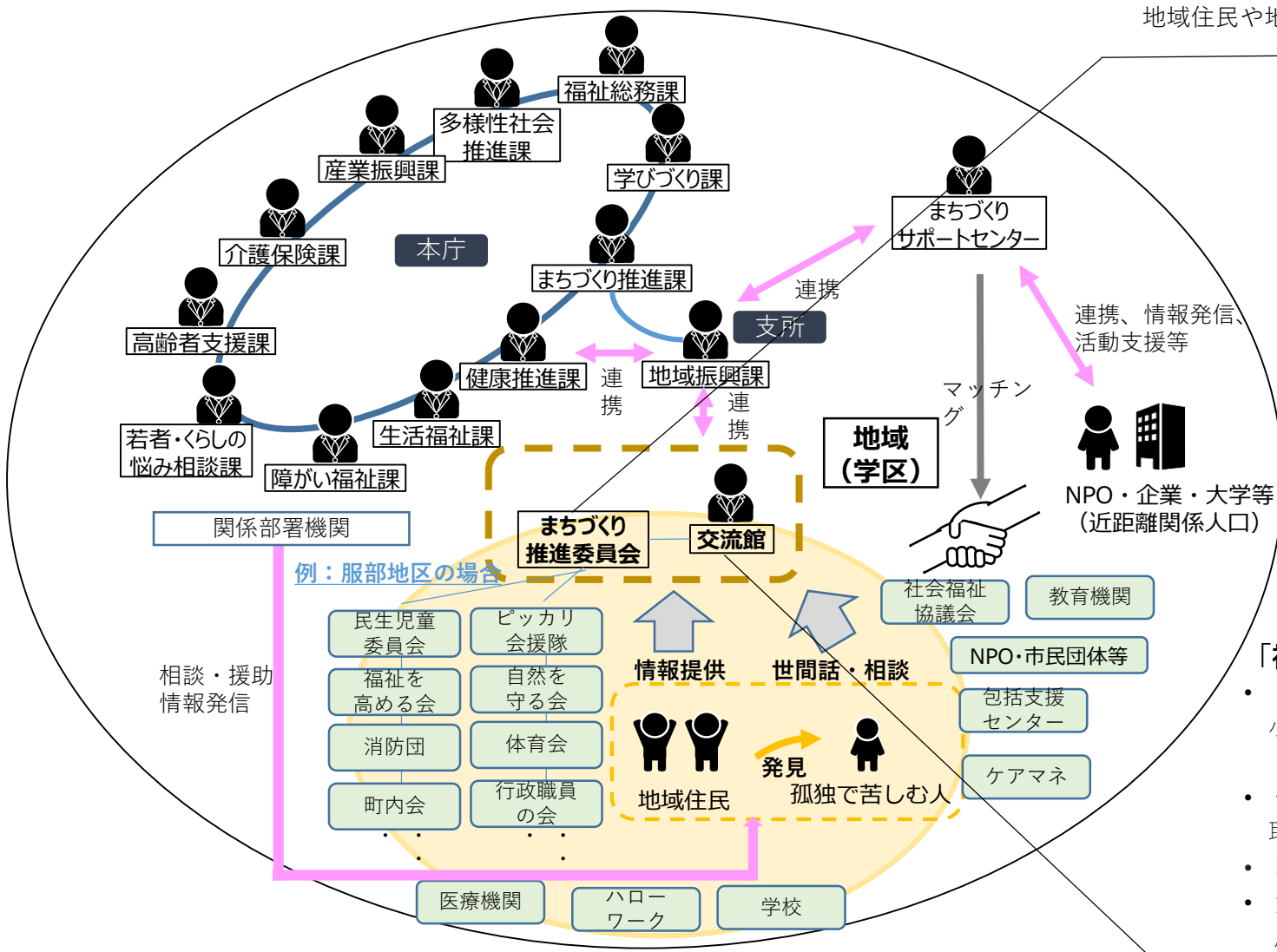
行政、地域、NPO、事業者等が日常的に課題を共有し、資源を持ち寄り、協力して解決（新たな社会資源を創出）していく包摂的な地域づくり

ふくやま孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム イメージ図

「誰一人取り残されることのない包摂的な社会」に向けて

「まちづくり推進委員会」

- 市内の学区毎に設置されている自治組織であり、地域住民や地域団体が構成されている



「福山市交流館」

- ・ まちづくり推進委員会の事務機能を担い、小学校区毎に設置された旧公民館（市内に約90の交流館が存在）
- ・ 住民が集い、つながり主体的に課題解決に取り組むまちづくりの拠点
- ・ 地域住民にとって一番身近な行政の相談窓口
- ・ 勉強スペース、会議室も整備しており、居場所としての機能も果たしている

令和6年度 福山市つながりサポーター養成講座（中学生対象）

1 ねらい

「ひとりぼっちをつくらない！地域社会の創造をめざす」
家庭、地域、学校では学ぶ機会がない孤独・孤立の問題や
日常的サポートについて知ってもらう講座を開催し、誰もが
孤独・孤立に陥りやすい社会背景や、個人の責任（自己責任）
ではないということを学び、みんなでお互いに支え合い共生
していける地域社会をめざす。

2 開催日時

2025年（令和7年）2月25日（火）

13時35分～15時25分（5・6限目）

〔11R〕教室での対面開催〔12R～16R〕オンライン開催

3 開催場所

福山市立城北中学校（福山市木之庄町四丁目1番1号）

4 講師

大西 連 氏（内閣府 孤独・孤立対策推進室 参与／認定特定
非営利活動法人 自立生活サポートセンター もやい 理事長）

5 参加者

福山市立城北中学校 1 学年（222名）＋教諭 等

6 講座内容（標準テキストを使用）

前半では、「孤独・孤立とは何か？」という基本的な知識に
加えて、誰もが孤独・孤立に陥りやすくなっている社会背景・
身近にある孤独・孤立状態の例、孤独・孤立に関する調査デー
タを紹介する。孤独・孤立は社会構造上発生しており、個人の
責任（自己責任）ではないということを説明するとともに、他
人事でなく自分自身または身近なところで発生している問題で
あることを解説する。

後半では、個人ワークを取り入れながら自分、そして周囲の
人が悩みや困りごとを抱えたときにできることを考える。さら
に具体的な行動例を示すことで基本的な対応を学ぶとともに、
対応する相談窓口や地域活動を紹介する。

地域と未来を担うこどもたちが直接交流し、
つながることで生まれる可能性と未来への
希望をこめて地域活動のページを作成

地域活動を知ろう

福山市では、以下のような地域活動を行なっています。

▼まちづくりの拠点「つながる」交流館

- 住民が集い・つながり主体的に課題解決に取り組む
まちづくりの拠点
- 地域住民にとって一番身近な行政の相談窓口
お近くの交流館へお問い合わせください。

交流館一覧



▼福山市内の子ども食堂

- 地域のボランティア団体等を中心に、子どもが1人でも
利用することができる無料または低額で利用できる食堂
 - ※詳しくは、福山市社会福祉協議会まで
お問い合わせください。
- TEL 084-928-1333（福祉のまちづくり課）



紹介したもの以外にも、地域では
様々な地域活動が取り組まれています。

▼地域ポイント制度（まちづくりパスポート事業）

- 福山ばら祭でのボランティア活動や地域の清掃活動などの
まちづくりパスポート事業の対象活動に参加して、
「まちバスポイント」を集めると、素敵な特典と交換できます。

〔対象活動〕

- 学習・体験
行事やイベント、講座等での学習・体験活動
（一律25ポイント）
- ボランティア参加・地域活動参加
行事やイベント等の運営にボランティアとして参加、地域活動の
運営等に参加

〔中学校の先生からみなさんへ〕

悩みや不安・困りごとがあった時には、一人で抱え込んではいけません。
なぜなら、その問題の解決がもっと難しくなってしまうかもしれないからです。

だからこそ、そんな時は友達や家族・先生などに相談をしてみましょう。
先生たちはみんなとの「つながり」を大切にしたいと思っています。

「ひとりじゃないよ」という
先生からのメッセージ

社会問題としての孤独・孤立 ～今後の施策展開に向けて～

家族機能  きづき・つながり

日常を共にしているから変化に気づける
気づいた家族は専門家・制度につなげる

単身化社会への対応 / 家族機能の社会化



**「未然防止・予防・
早期発見のための
施策の充実」**

視点 1

関係機関・団体等のつながりを強化し、**重層的な支援体制**を構築する。

- (例)
- ・ 重層的支援体制整備事業（つながるシートの活用）
 - ・ ふくやま孤独・孤立対策官民連携プラットフォームの設立
 - ・ 地域における包括的な支援体制の整備

視点 2

**地域のつながりを高め、「孤独・孤立」に陥りにくく、
誰かに頼りやすい環境を整える。**

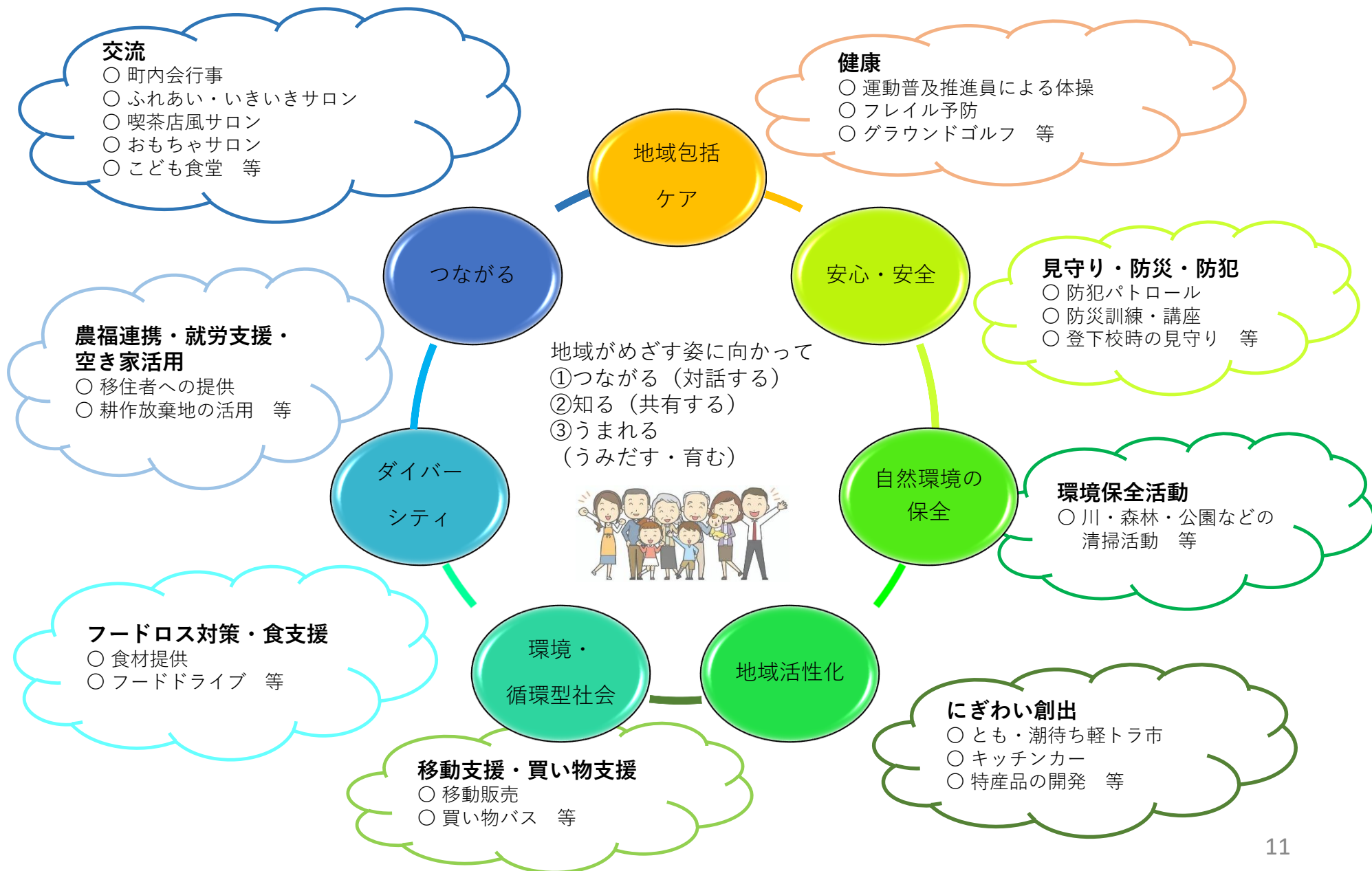
- (例)
- ・ 地域コミュニティの充実
 - ・ 子どもに関する情報やデータ連携による支援
 - ・ アウトリーチ型支援体制の構築

視点 3

ライフステージのあらゆる場面で、
孤独・孤立の予防等を意識した施策を展開する。

- (例)
- ・ 子育ての孤立化防止、不登校対策
 - ・ 就職支援（就職氷河期を含む）、職場環境の改善
 - ・ 住まいの支援、外国人生活支援、多様性理解の促進

地域づくりから地域生活課題解決へ



ご清聴ありがとうございました

